

## 第5章 地域別構想

1. 基本的な考え方	54
2. 地域区分	55
3. 地域別構想	56
3-1. 江別地域	56
3-2. 野幌地域	64
3-3. 大麻・文京台地域	72
3-4. 豊幌地域	78
3-5. 農村地域	82

# 第5章 地域別構想

## 1. 基本的な考え方

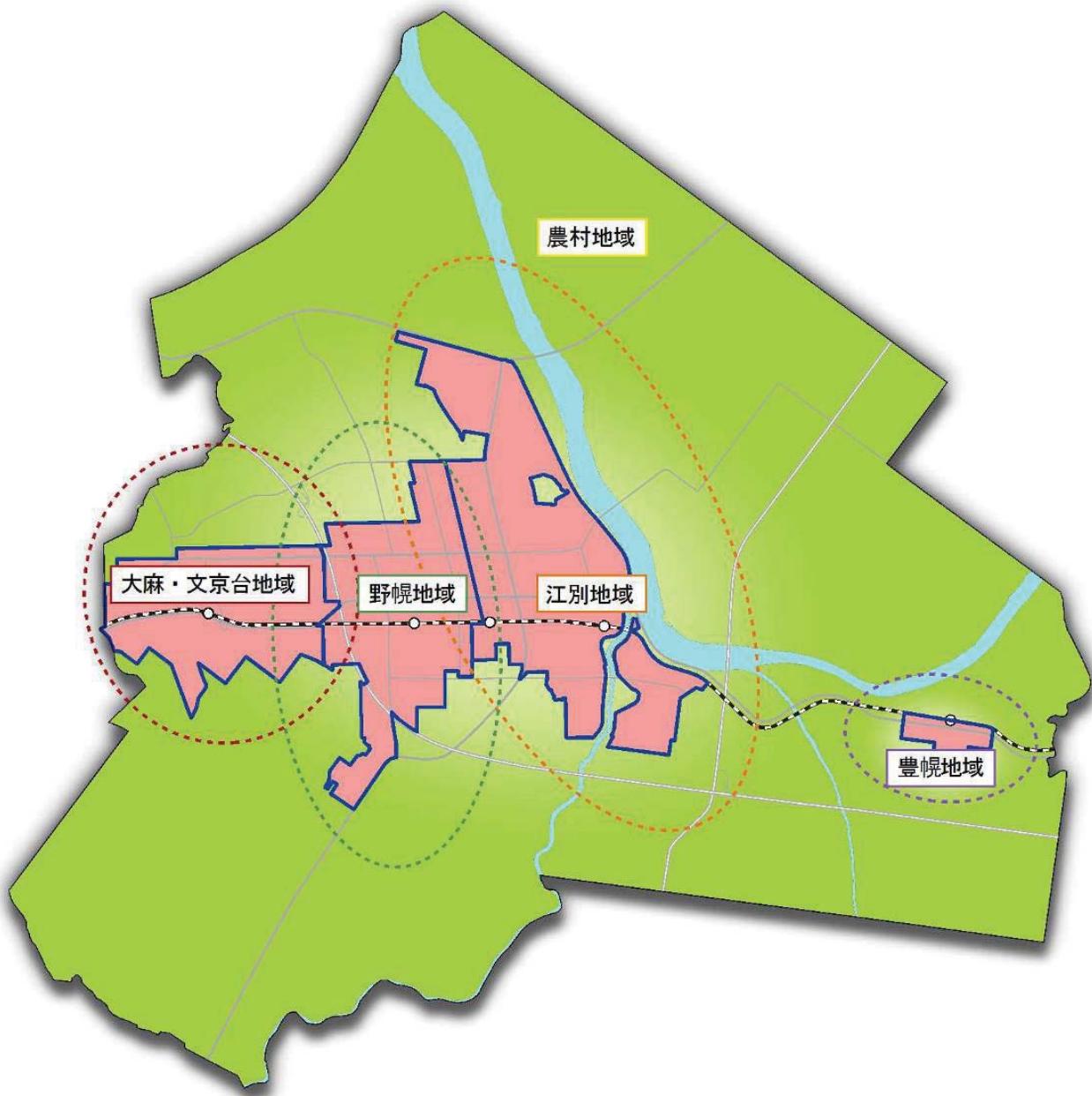
「地域別構想」は、地域単位のより身近な生活空間の整備方針であり、「第3章 将来都市像と都市づくりの目標」、「第4章 都市づくりの基本方針」における江別市の都市づくりの全体方針の枠組みを踏まえ、各地域の特性に応じた発展を促し、都市全体の発展に繋げるための地域づくりの指針です。

江別市は、各地域が地理的、歴史的な背景などから、地域固有の特性をもとに発展してきた経過があり、今後においてもその特性を活かした地域づくりが重要になります。



## 2. 地域区分

地域別構想の地域区分は、地域に応じて多種多様な特性を有する市街地やその周辺部を範囲とし、地域の歴史、発展の形態、地理的条件、これまでの形成経過や住区構成などを踏まえて、江別地域、野幌地域、大麻・文京台地域、豊幌地域、農村地域の5地域に分けて、地域づくりの基本的な方針を定めます。



### 3. 地域別構想

#### 3-1. 江別地域

##### 3-1-1. 地域概要

江別地域は、江別、野幌、大麻・文京台と連なる市街地の東端に位置し、石狩川、千歳川などの自然環境が身近にある市内で最も古い歴史を持つ地域です。

主な土地利用は、江別駅周辺の古くからある商業地や住宅地、その周辺に緩やかに住宅建設が進む新興住宅地や王子から工栄町、角山にかけての工業地となっています。

##### 3-1-2. 地域の現況と求められる視点

江別駅周辺は、古くから商業業務地として栄えてきましたが、商業を取り巻く環境や生活様式などの変化により、駅周辺の人口や商業系土地利用が減少し求心性を失いつつある一方で、江別発祥の地として、れんがのまちなみや歴史的・文化的資源を有しており、「やきもの市」などのイベントを開催するなど、地域資源を活かした取り組みが行われています。こうした取組や駅周辺の交通利便性などを活かした賑わいのある拠点形成が必要となっています。

高砂駅周辺地区や元江別中央地区は、交通環境を充実し、利便施設の集積を図るなど、地域の日常生活を支える拠点として育成を図ることが必要です。

萌えぎ野などの土地区画整理事業等による新興住宅地は、良好な住環境を形成しており、人口は増加していますが、地区核周辺の古くからある住宅地の人口密度が低いことから、江別市の医療の中心を担う市立病院、運動施設を備えた青年センター、飛鳥山公園、福祉施設等の都市機能を活かした地域づくりを進め、住宅地の魅力を高めることが重要となっています。

地域内には王子に製紙工場、工栄町、角山には製造、加工、流通業などが立地する工業団地があります。また、北海道縦貫自動車道などの都市間を結ぶ広域幹線道路や、江別太地区には江別東インターチェンジを有していることから、交通利便等の高い優位性を活かした企業立地を進めるなど地域経済の活性化に寄与する地域づくりが必要となっています。

昭和 56 年の豪雨では、水害に見舞われ大きな被害を受けた地域であり、石狩川、千歳川など流域の総合的な治水対策を進めます。また、地域内の建物の老朽化が進んでいることから、建築物の耐震化などが必要となっています。一方で、石狩川や千歳川などの河川環境は貴重な地域資源であることから、景観形成、市民活動の場としてなど、今後の地域づくりにおいて、有効に活用していくことが重要です。

### 3-1-3.地域づくりの目標

江別地域は、江別駅周辺の歴史性や界隈性※1、良好な河川環境などの特性を活かして地域の魅力を高めるとともに、交通環境における優位性などを活かした地域づくりを進めることから、次の3つの目標を定めます。

#### ①地域と連携を図り、特性を活かした江別駅周辺の地区核を形成します

江別駅周辺地区は、地域をはじめ、地元関係者などとの連携・協働のもと、歴史性や界隈性などの特色や優位性を活かしながら、地区核にふさわしい駅周辺の再構築を検討し、周辺市街地との連鎖的な活性化に繋げていきます。

#### ②良好な交通環境を活かした産業の活性化を図る土地利用を推進します

工業地や江別東インターチェンジ、または、今後の道路整備などにより交通利便性が高まる地域においては、その優位性を活かした地域経済の活性化に寄与する土地利用を推進します。

#### ③総合的な治水対策、地域資源を有効に活用した地域づくりを推進します

歴史性や景観、自然環境など、多様性のある河川環境を有効に活用するとともに、内水対策を含めた総合的な治水対策などの災害対策を進め、重要な地域資源である河川と共に存した地域づくりを進めます。



えべつみらいビル

#### 用語解説

※1 界隈性：歴史ある街並みと新しい施設などが、全体としてまとまりのある状態。

### 3-1-4. 地域づくりの基本方針

#### ①土地利用

##### 1) 拠点

###### 1)-1 地区核（江別駅周辺）

◇まちなか居住を推進するため、多様な住居機能や商業業務機能などの複合的な土地利用を図り、駅利用者が集まる江別駅や既存の商業業務機能、歴史性などの特性を活かしながら、未利用地などの有効活用、交通結節機能強化などの検討を行い、江別市の地区核にふさわしい拠点を形成します。

◇低未利用地※1や既存施設の活用においては、学校施設再編等により未利用となる大規模な市有地や、土地利用の転換が見込まれる民有地などを一体的に、周辺の都市基盤との整合を図りながら検討を行います。

◇江別駅周辺の地域づくりに関する検討は、協働の視点のもと、地元関係者の意向や提案などを踏まえ、地元関係者、関係機関で構成される協議会などにより、官民一体となって、計画的に進めます。

###### 1)-2 地域拠点（高砂駅周辺、元江別中央地区）

◇未利用地の活用や利便機能の誘導などに努め、日常生活の利便性に寄与する地域拠点としてふさわしい土地利用を推進します。

◇未利用地の活用については、住民ニーズや周辺環境などを踏まえ、必要に応じて用途転換などを含めた適切な土地利用のあり方を検討します。

##### 2) 幹線道路沿道地

◇幹線道路沿道地は、既存施設や交通利便性を活かし、生活利便施設等の誘導を図るなど、商業業務機能や集合住宅などが調和した土地利用を推進します。

◇南大通など、新たな道路整備により交通利便性の向上が期待される幹線道路沿道地においては、周辺環境との調和を図りながら幹線道路沿道地にふさわしい業務系などの土地利用について、必要に応じた検討を行います。

##### 3) 住宅地

◇未利用地の有効活用に努め、戸建住宅、中高層住宅、生活利便施設等が調和した一般住宅地を形成します。

◇地区核周辺などの一般住宅地では、市立病院、公園、福祉施設、教育施設等の機能や駅周辺の利便性を活かしたまちなか居住を推進します。

◇ゆめみ野、萌えぎ野などの土地区画整理事業により造成された住宅地をはじめとする専用住宅地は、未利用宅地への住宅建築の誘導に努め、戸建住宅を中心としたゆとりある住宅地を形成します。

#### 用語解説

**※1 低未利用地：**長期間に渡り利用されていない「未利用地」と周辺状況と比べて利用の程度（整備水準、管理水準など）が低い「低未利用地」の総称。

#### 4) 工業地

- ◇札幌圏としての優位な立地条件や良好な交通環境を活かし、企業誘致を推進します。
- ◇第1、第2工業団地では、立地環境の向上を図りながら未利用地の有効利用に努め、周辺環境と調和した製造、加工、流通等を主体とした工業地の形成に努めます。
- ◇札幌圏連携道路（道道札幌北広島環状線）の整備に伴い、工業地としての優位性が高まる地区については、必要に応じて、新たな土地利用の検討を行います。また、同時に、都市的土地区画整理事業の優位性が高まり、望ましくない土地利用がなされる恐れがある地区については、必要に応じて良好な沿道土地利用の検討を行います。
- ◇江別東インターチェンジ周辺は、道央圏連絡道路（国道337号）や南大通などの整備により、交通利便性等の優位性が向上するため、引き続き、事業進捗と整合を図りながら、交通特性を活かした流通及び関連業務地などの土地利用の検討を行います。

#### ②都市施設

##### 1) 道路・交通

###### 1)-1 道路網

- ◇道央圏連絡道路（国道337号）、札幌圏連携道路（道道札幌北広島環状線）、南大通の整備を推進し、道路交通機能の強化を図るなど、将来道路網を基本とした整備を進めます。
- ◇3丁目通、対雁中通、対雁通、鉄東線、5条1丁目通は、都市計画道路見直し検討路線として、人口減少や土地利用などを考慮し、必要な見直しの検討を行います。

###### 1)-2 歩行系道路

- ◇地区核である江別駅周辺、地域拠点である高砂駅周辺及び元江別中央地区周辺や都市幹線道路などを主要歩行者通行路線として位置づけ、安全で快適な歩行・自転車空間の確保に努めます。
- ◇主要歩行者道路を多く含む江別駅周辺は、利用状況に応じてバリアフリー化や沿道の緑化などを推進し、人にやさしく安全で快適な歩行・自転車空間の整備に努めます。また、老朽化した江別駅跨線人道橋の架け替えにより、バリアフリーに対応した歩行者、自転車にやさしい歩行・自転車空間を整備し、江別駅周辺の交通利便性を高めます。

###### 1)-3 公共交通及び関連施設等

- ◇江別駅周辺施設のバリアフリー化を推進するとともに、江別駅跨線人道橋の架け替えに合わせて駐輪場の整備を進めます。
- ◇高砂駅周辺地区は、駅利用者の利用状況などを踏まえ、安全性や利便性の観点から交通環境の向上について検討を行います。
- ◇江別地域におけるバス交通の課題に対応した効率的なバス交通体系の検討を行い、駅を中心とした交通結節機能の強化を図り、地域の利便性を高めるとともに、公共交通などの利用促進を図ります。

### 2) 水と緑

- ◇石狩川、千歳川などの河川、鉄道林、住宅地を結ぶ四季のみち、公園などを関係機関等と連携を図りながら適正に管理・保全し、緑豊かな都市空間の形成をめざし、水と緑のネットワークとして活用します。
- ◇既存施設の活用と長寿命化を基本としながら、バリアフリー化を進めるなど誰もが利用しやすい公園施設の充実を市民協働で進めます。
- ◇地域内の公園や緑地において、アダプト・プログラム制度を活用した、地域住民などによる公園の清掃・美化活動を進めます。

### 3) 上下水道

- ◇上下水道は、維持管理に重点を置きながら、必要に応じて計画的な施設の整備を進め、安全で快適な生活環境を保全します。
- ◇災害時のライフライン確保のため、施設の耐震化を進めるなど、災害に強い上下水道施設をめざします。

### 4) 公共施設等

- ◇地域の公共施設等は、施設の長寿命化や有効活用、機能の充実に努め、バリアフリーなどに配慮された誰もが利用しやすい施設整備に努めます。また、適正な維持管理のもと、必要に応じて多様な住民ニーズを踏まえた利活用を検討します。
- ◇施設整備にあたっては、市民と行政の役割分担のもと、多様な利用や転用が容易な構造、既存施設の配置状況や利用状況及び地域特性などに応じた適正配置、耐震性や耐久性、景観などに配慮します。

## ③都市環境

### 1) 都市防災

- ◇災害時の避難所機能を有する公共施設や小中学校施設の耐震化の促進や、一時避難所となる公園のオープンスペースの確保、避難経路・代替性を考慮に入れた道路網の形成、上下水道の耐震化の促進、緊急時における指定輸送道路の確保など、災害に応じた施設の対策に努めます。
- ◇石狩川、千歳川をはじめとした河川の内水対策や堤防強化、河道の掘削、江別太の遊水地の整備・活用など、国、北海道、関係自治体等と連携した計画的、総合的な治水事業を推進します。
- ◇江別河川防災ステーションは、資器材の備蓄や災害時の避難所、防災意識の啓発など水防活動の拠点基地としての役割を維持するとともに、通行者の休憩、物産販売やイベントなどによる市内外の交流の場として活用します。

### 2) 景観

- ◇江別市の歴史資源や千歳川などの良好な河川環境を活かし、地域の特徴に応じた沿道景観の形成など、歴史や自然と生活が調和し、地域の魅力となる利活用を景観形成に関する計画に即して、協働で推進します。

- ◇江別駅周辺の土地利用の検討においては、歴史的建物などの歴史資源や千歳川などの河川環境を活かした景観形成に努めます。
- ◇江別東インターチェンジ周辺地区の土地利用の検討においては、農村地に囲まれているなど、周辺の環境に配慮した景観形成に努めます。
- ◇美原大橋などの江別市を象徴する景観資源については、PRを含めた利活用に努め、地域の魅力向上を図ります。
- ◇公共施設の整備などにおいては、地場産れんがの使用を推進するなど、周辺環境と調和した江別らしい景観に配慮します。

### 3) 環境

- ◇石狩川、千歳川をはじめ多くの河川を有しております、温室効果ガスの低減を図る河畔林など、良好な河川環境の保全・活用に努めます。
- ◇工栄町の市有地において、太陽光発電施設の整備を進め、再生可能エネルギーの普及・活用の先導的事例として、工業団地などの事業者に対する普及啓発を図ります。



## 江別地域方針図



### 3-2. 野幌地域

#### 3-2-1. 地域概要

野幌地域は、市街地の中央に位置し、野幌駅周辺には商業業務施設や公共施設等が集積する江別市の中心を担う地域として発展しています。

主な土地利用は、野幌駅周辺や幹線道路沿道の商業地、その後背の住宅地、近年、住宅建設が進む郊外の新興住宅地、西野幌の先端技術系企業や研究機関等が立地する工業地となっています。

#### 3-2-2. 地域の現況と求められる視点

野幌駅周辺には、マンションや商業施設、公民館、市民体育館、情報図書館などの各種公共・公益施設等が数多く立地し、その周辺には大規模店舗が立地するなど、江別市で最も人口や利便施設、都市内の幹線道路などが集中しています。近年では「江別の顔づくり事業」により都市基盤を整備し、都市機能の充実や賑わいのある都心づくりをめざした取組を進めており、集約型都市構造を進めるうえで中心市街地に位置づけられていることから、今後、江別市の中心地としてふさわしい地域づくりを進める必要があります。

地域内には主要な幹線道路が東西・南北方向に交差しており、市街地の南北一体化に資する重要な路線が配置されています。また、野幌グリーンモールや東西・駅南グリーンモールの整備、歩行・自転車空間のバリアフリー化などを進めており、「歩いて暮らせるまちづくり」を促進するとともに、交通環境の優位性を活かした地域づくりが重要となっています。

先端技術系企業や高度情報技術の人材を育成する大学などが立地するR T Nパークは、近年では、フード特区の指定などを契機とした食関連産業の誘致を推進しており、野幌森林公園や農村地区に隣接した緑豊かな研究産業地を形成しています。また、4車線道路に面する優位性があることから、地域経済の発展に寄与する有効な活用が求められています。

市街地や札幌市に近接する江別西インターチェンジ周辺地区は、今後の新たな幹線道路の整備により交通結節機能が向上することや、農業との連携が可能なフード特区の指定などの優位性を踏まえた土地利用を検討する必要があります。

### 3-2-3. 地域づくりの目標

野幌地域は、野幌駅周辺を第3章3の都市づくりの目標である「えべつ版コンパクトなまちづくり」における中心市街地として、地域の魅力を高めるとともに、交通環境などの優位性を活かした地域づくりを進めることから、次の3つの目標を定めます。

#### ①野幌駅周辺を集約型都市構造における中心市街地として育成します

野幌駅周辺は、「江別の顔づくり事業」を引き続き推進し、公共施設整備や都市基盤整備、交通結節機能などの強化、歩行系空間の充実、江別らしい景観の創出などを図りながら、都市機能の集積やまちなか居住を進めることにより、周辺市街地への連鎖的な活性化を促すなど、集約型都市構造の形成に向けた中心市街地の育成を図ります。

#### ②住宅地と中心市街地等を連絡する交通環境の強化を図ります

集約型都市構造の形成を図るため、中心市街地の育成と併せ、公共交通の利便性向上や良好な歩行・自転車空間の形成など、周辺の一般住宅地や専用住宅地と連絡する交通環境の充実を図り、多くの人が徒歩で暮らしやすい環境を整えます。

#### ③多様な地域資源の活用による地域経済活性化に資する戦略的な土地利用を推進します

自然豊かな野幌森林公園や農村地区に隣接し、大学や先端技術系産業、食関連産業等が集積しているR T Nパーク、また、今後の新たな幹線道路の整備により、交通結節機能のさらなる向上が期待される江別西インターチェンジ周辺地区などの地域資源を活用し、フード特区の指定などの優位性を踏まえ、地域産業の活性化に資する戦略的な土地利用の検討を進めます。



JR 野幌駅

### 3-2-4. 地域づくりの基本方針

#### ①土地利用

##### 1) 拠点：中心市街地（野幌駅周辺）

- ◇「江別の顔づくり事業」における土地区画整理事業や街路事業などにより都市基盤整備を進め、集約型都市構造における中心市街地を形成します。
- ◇「江別の顔づくり事業」の推進により、野幌駅周辺の利便性などが向上することから、土地の複合・高度利用や、幹線道路沿道にふさわしい用途への転換を検討します。
- ◇地元協議会などを通じて地域、事業者、行政が一体となって野幌駅周辺の活性化に取り組みます。
- ◇商業等活性化事業などにより、市民交流施設を整備するとともに、「江別の顔づくり事業」に係る情報発信などに努めながら民間開発を誘導し、江別市の都市活動の拠点にふさわしい中心市街地を形成します。

##### 2) 幹線道路沿道地

- ◇3番通や白樺通などの幹線道路沿道の大規模未利用地については、沿道の既存施設や交通利便性を活かし、生活利便施設等の誘導を図るなど、商業業務機能や集合住宅などが調和した土地利用を推進します。
- ◇新たな道路整備に伴い街区の形状が変わる場合などは、周辺の状況や土地利用を考慮しながら、必要に応じて用途転換などの検討を行います。

##### 3) 住宅地

- ◇未利用地の有効活用に努め、戸建住宅、中高層住宅、生活利便施設が調和した一般住宅地を形成します。
- ◇中心市街地周辺の一般住宅地では、公民館、市民体育館、情報図書館などの機能や駅周辺の利便性を活かしたまちなか居住を推進します。
- ◇新栄台やあさひが丘などの土地区画整理事業により造成された住宅地をはじめとする専用住宅地は、未利用宅地への住宅建築の誘導に努め、戸建住宅を中心としたゆとりある住宅地を形成します。

##### 4) 工業地

- ◇R T Nパークは、住宅地や野幌森林公園、農村部との隣接、フード特区の指定という特性を活かした土地利用の検討を行い、先端技術系産業や食関連産業等の企業誘致に努めます。また、必要に応じてフード特区の指定を契機とした、大学と研究・食関連産業等との連携を視野に入れた土地利用を検討します。
- ◇R T Nパークの今後の土地需要においては、未造成地の活用を基本とし、道道江別恵庭線や道道野幌総合運動公園線などの幹線道路を活かした立地環境の拡充などを図ります。

◇江別西インターチェンジ周辺及びその近傍は、大麻インター線や道道江別恵庭線の整備などによる交通利便性の向上やフード特区の指定、周辺環境などの特性を活かし、広域性のある流通業務地のほか、産業振興やまちの魅力の向上に寄与する土地利用について、周辺環境への配慮・調和などを考慮して検討を進めます。

◇新たな道路整備により都市的土地区画整理事業の優位性が高まり、望ましくない土地利用がなされる恐れるある地区については、現状の土地利用を踏まえ、必要に応じて適正な沿道土地利用の検討を行います。

## ②都市施設

### 1) 道路・交通

#### 1)-1 道路網

◇道道江別恵庭線や大麻インター線、中心市街地である野幌駅周辺における8丁目通（道道野幌停車場線）など幹線道路等の整備促進に努めるとともに、札幌市や江別西インターチェンジへのアクセス機能の強化を図るなど、将来道路網を基本とした整備を進めます。

◇都心環状道路を構成する、白樺通、中原通、南大通の整備を進めます。

◇駅環状道路を構成する、8丁目通、野幌駅南通、旭通、鉄西線の整備を進めます。

#### 1)-2 歩行系道路

◇中心市街地である野幌駅周辺や都市幹線道路などを主要歩行者通行路線として位置づけ、安全で快適な歩行・自転車空間の整備を進めます。

◇主要歩行者通行路線を多く含む野幌駅周辺は、歩行者や自転車に配慮した歩道のバリアフリー化やグリーンモールの整備を進め、人にやさしく安全で快適な歩行・自転車空間の整備を行い、徒歩や自転車による移動を誘導します。

#### 1)-3 公共交通及び関連施設等

◇「江別の顔づくり事業」により、駅前広場や駐輪場、関連道路の整備を進め、交通結節機能を高めます。

◇鉄道高架による南北間交通の利便性向上や駅前広場整備による交通結節機能の向上を踏まえた、効率的・効果的なバス交通体系の検討を行い、公共交通の利用促進を図ります。

### 2) 水と緑

- ◇グリーンモール整備による緑の創出や、鉄道林、公園などの適正な管理・保全により、緑豊かな都市空間の形成を図り、都市の緑のネットワークを保全・創出します。
- ◇既存施設の活用と長寿命化を基本としながら、バリアフリー化を進めるなど、誰もが利用しやすい公園施設の充実を市民協働で進めます。
- ◇地域内の公園や緑地において、アダプト・プログラム制度を活用した、地域住民などによる公園の清掃・美化活動を進めます。
- ◇東野幌総合公園は、緑の拠点として位置づけ、既存樹林の保全や生物の生息環境に配慮し、計画的な整備に向けた検討を行います。
- ◇都心の希少な自然、市民の憩いの緑空間として、野幌駅周辺の都市緑地（鉄道林）の整備・保全を検討します。

### 3) 上下水道

- ◇上下水道は、維持管理に重点を置きながら、必要に応じて計画的な施設の整備を進め、安全で快適な生活環境を保全します。
- ◇災害時のライフライン確保のため、施設の耐震化を進めるなど、災害に強い上下水道施設をめざします。

### 4) 公共施設等

- ◇まちなか居住の先導的な取組として、市営住宅新栄団地の建て替えを計画的に進めます。
- ◇地域の公共施設等は、施設の長寿命化や有効活用、機能の充実に努め、バリアフリーなどに配慮された誰もが利用しやすい施設整備に努めます。また、適正な維持管理のもと、必要に応じて多様な住民ニーズを踏まえた利活用を検討します。
- ◇施設整備にあたっては、市民と行政の役割分担のもと、多様な利用や転用が容易な構造、既存施設の配置状況や利用状況及び地域特性などに応じた適正配置、耐震性や耐久性、景観などに配慮します。
- ◇特に市営住宅新栄団地の建て替えにおいては、バリアフリー化、地域コミュニティの形成、環境負荷の軽減などに配慮しながら計画的に進めるとともに、高層化により生じた用地には公益的施設等の立地を誘導します。

### ③都市環境

#### 1) 都市防災

- ◇災害時の避難所機能を有する公共施設や小中学校施設の耐震化の促進や、一時避難所となる公園のオープンスペースの確保、避難経路・代替性を考慮に入れた道路網の形成、上下水道の耐震化の促進、野幌駅周辺の電線類の地中化、緊急時における指定輸送道路の確保など、災害に応じた施設の対策に努めます。
- ◇野幌森林公园などにおける林野火災の予防や市街地への延焼防止のため、関係機関との連携強化に努め、組織的な対策を図ります。

#### 2) 景観

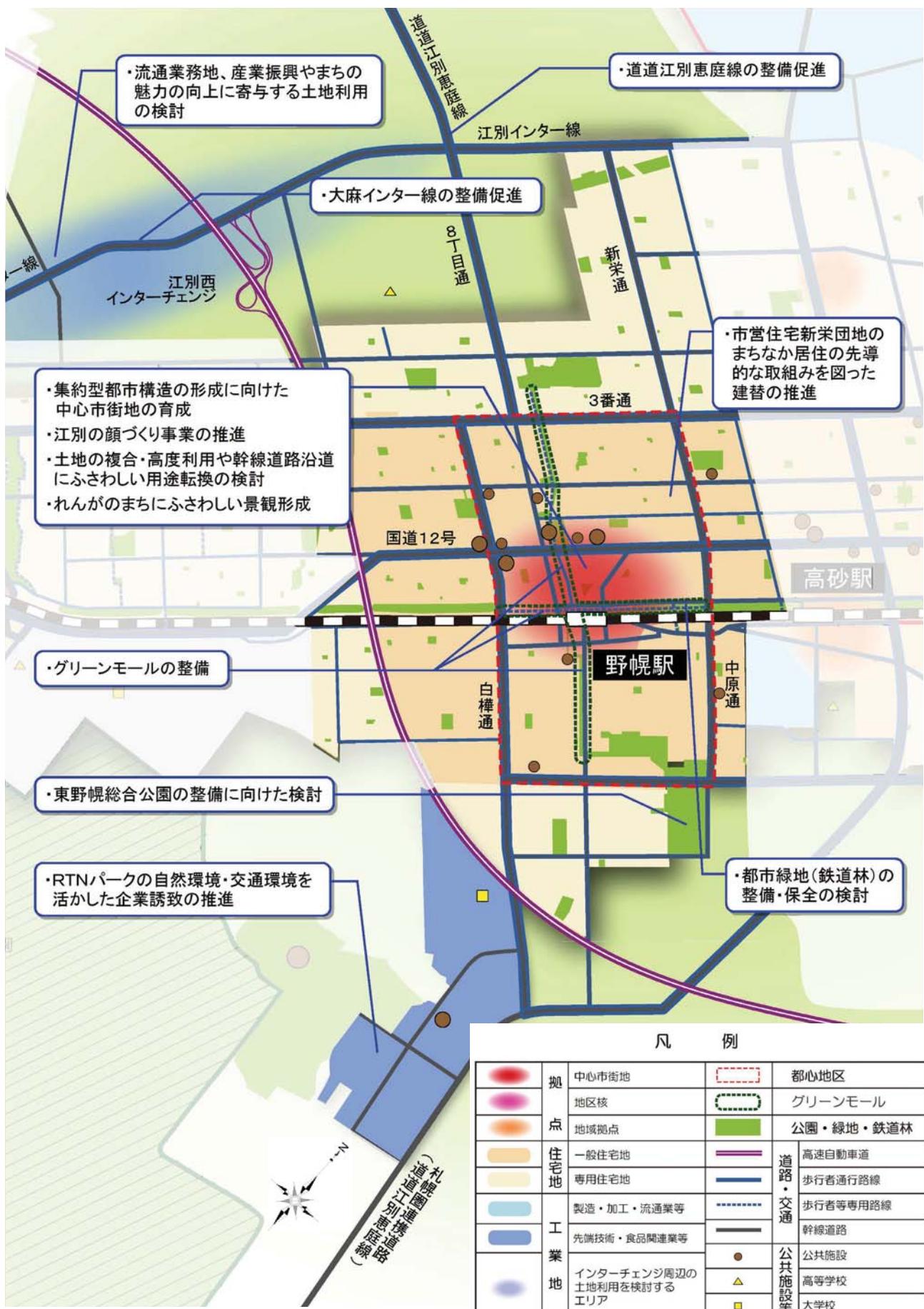
- ◇中心市街地を有する地域として、れんがのまちにふさわしいまちなみを景観形成に関する計画に即して協働で推進します。
- ◇特に中心市街地である野幌駅周辺においては、地域による建物の意匠などのルールづくりや公共施設整備における地場産れんがの使用など、中心市街地にふさわしく江別らしい景観づくりを進めます。
- ◇野幌駅周辺は、電線類の地中化を進め、中心市街地にふさわしい質の高い都市景観を形成します。
- ◇江別西インターチェンジ周辺地区の土地利用の検討においては、農村地に囲まれているなど、周辺環境に配慮した景観形成に努めます。

#### 3) 環境

- ◇野幌駅前広場の歩道において、環境に配慮した再生可能エネルギーの利活用として、地中熱を利用した融雪機能の整備を行います。



## 野幌地域方針図



### 3-3. 大麻・文京台地域

#### 3-3-1. 地域概要

大麻・文京台地域は、市街地の西端に位置し、計画的に造成されたゆとりある成熟した住宅地や道立図書館、大学などの高等教育機能が集積するなど、江別市の居住・教育・研究機能の中心となる地域です。

主な土地利用については、大麻地域の昭和39～46年度にかけて計画的に造成された中層集合住宅と戸建住宅の住宅地、近年、土地区画整理事業によって開発された戸建住宅地、文京台地域の学生が多く居住する住宅地及び大学や研究機関が立地する文教地区となっています。

#### 3-3-2. 地域の現況と求められる視点

北側の大麻地域は、地形を活かした大麻中央公園、大麻東公園、大麻西公園や遊歩道のように連続して配置された公園などを有する緑豊かな閑静な住宅地となっています。一方、南側の文京台地域は、国道12号沿道に位置し、近隣に大学、研究機関等を有する学生が多く住む地域となっています。大麻駅周辺は、地域の主要な拠点である地区核と位置づけられており、大麻駅は、大麻地域、文京台地域の境目に立地していることから、南北地域の特性に配慮した拠点づくりが必要です。

大麻地域は、戸建住宅と多くの中層集合住宅、周辺の商業機能が計画的に配置されていますが、大規模団地開発により住宅地が一斉に供給されたため、居住者の高齢化や建物の老朽化が一斉に進んでいます。「大麻団地まちづくり指針」に基づいた取組、住宅のリフォーム、高齢者の一戸建てから高齢者住宅等への住みかえなどの取組を地域住民が主体となって進めるとともに、地域住民と連携しながら、著しく進行している高齢化や建物の老朽化に対応した住宅地の再生、近年の商業環境や生活様式の変化に対応した商店街の再生などを図っていく必要があります。

文京台地域は、野幌森林公園に隣接した自然豊かな住宅地を有し、大学や研究機関、北海道立図書館など、文教施設が多く立地しています。しかし、近年では、少子化や生活形態の変化により、地域内に居住する学生数が減少していることから、今後は、豊かな自然や文教施設等の地域資源を活かしながら、生活機能が充実し、生活の場としても魅力のある文教地区の形成が求められています。

地域の北側の江別西インターチェンジ周辺及びその近傍は、市街地や札幌市に近接し、新たな幹線道路の整備により交通結節機能がさらに高まることが期待され、流通業務地などとしての優位性が高まりつつあることから、フード特区の指定や今後の社会経済動向を踏まえ、地域の経済活性化などに資する効果的な土地利用の検討が必要となっています。

### 3-3-3. 地域づくりの目標

大麻・文京台地域は、少子高齢化や建物の老朽化などの課題に対応するとともに、緑豊かで良好な住環境や交通環境の優位性を活かした地域づくりを進めることから、次の3つの目標を定めます。

#### ①地域性の異なる南北地域に配慮した大麻駅周辺の地区核を形成します

大麻駅周辺は、国道12号、JR函館線を境に大麻地域と文京台地域の中心に位置しており、大麻地域の閑静な住宅地である特性と、文京台地域の大学、研究機関等が立地し学生が多い文教地区としての特性に配慮した地区核を形成します。

#### ②少子高齢化へ対応し、地域資源の活用により魅力ある大麻・文京台地域を形成します

大麻地域は、高齢化や建物の老朽化が一斉に進んでいることから、地域住民などとの組織により、高齢者などが安全・安心に暮らしていくための仕組みづくりを行うとともに、成熟した自然環境と調和したまちなみを地域資源として活用し、住環境の改善を図ります。

また、文京台地域は、少子化や生活形態の変化の影響で地域内に居住する学生数が減少していることから、自然豊かな野幌森林公園に隣接し、大学や研究機関等が集積する文教地区の特性を活かしながら、土地利用などの検討を行い地域の魅力を高めていきます。

#### ③交通アクセス機能を活かした産業振興や魅力向上につながる土地利用を推進します

市街地や札幌市に近接する江別西インターチェンジ周辺地区は、今後の新たな幹線道路の整備により、交通結節機能がさらに向上することやフード特区の指定などの優位性を踏まえ、産業振興や地域の魅力向上につながる戦略的な土地利用の検討を行います。



大麻・文京台地域

### 3-3-4. 地域づくりの基本方針

#### ①土地利用

##### 1) 拠点：地区核（大麻駅周辺）

◇大麻地域側は、集積している都市機能や充実した交通環境、周辺の閑静な住宅地などの特性を活かし、地域の活動拠点としての地区核を形成します。

◇文京台地域側は、大学、研究機関等の文教施設が集積し、学生が多く居住する文教地区としての特性と、野幌森林公園に隣接する自然豊かな住環境とが調和した地域の活動拠点としての地区核を形成します。

##### 2) 幹線道路沿道地

◇東大麻地区の2番通沿道をはじめとした大規模未利用地や既存建築物の建替などにより、新たな土地利用展開が見込まれる場合は、地域の特性や住民ニーズなどに即した土地利用や整備に向けた取り組みに努めます。

◇特に、地区核周辺においては、大麻駅近傍の特性を活かしたまちなか居住や複合的な土地利用について検討し、また、閑静な住宅地においては、周辺住環境との調和などに配慮した土地利用を検討します。

◇大麻地域における既存の商店街などは、近年の多様な住民ニーズなどを踏まえ、必要に応じて、地域の活性化に寄与する土地利用について、地域の商業者や住民などとともに検討します。

◇文京台地域では、生活機能が充実した魅力のある文教地区の形成をめざすため、国道12号沿道の土地利用などについて、大学との連携により学生ニーズを踏まえ検討を進めます。

##### 3) 住宅地

◇大麻地域の閑静な専用住宅地や野幌森林公園に隣接する文京台地域の専用住宅地は、未利用宅地への住宅建築の誘導に努め、戸建住宅を中心としたゆとりある緑豊かな住宅地を形成します。

◇空き家の有効活用や住みかえなどによる住環境の活性化は、市民協働の観点から、市民、事業者、自治会、大学やNPO法人などで構成されるまちづくり活動組織などにより取組を行い、空き家対策などの今後のモデルケースとして進めます。

◇文京台地域における大麻駅周辺及び国道12号の後背地は、地域の高齢化や近年の学生居住者の減少、多様な生活形態などを考慮し、地域の考えを踏まえながら、戸建住宅、中高層住宅、生活利便施設などが調和した、野幌森林公園の入口にふさわしい魅力ある一般住宅地と文教地区の形成をめざします。

#### 4) 工業地

◇江別西インターチェンジ周辺及びその近傍は、大麻インター線の整備などによる交通利便性の向上やフード特区の指定、周辺環境などの特性を活かし、広域性のある流通業務地のほか、産業振興やまちの魅力の向上に寄与する土地利用について、周辺環境への配慮・調和などを考慮して検討を進めます。

◇新たな道路整備により都市的土地区画整理事業の優位性が高まり、望ましくない土地利用がなされる恐れるある地区については、現状の土地利用を踏まえ、必要に応じて適正な沿道土地利用の検討を行います。

#### ② 都市施設

##### 1) 道路・交通

###### 1)-1 道路網

◇大麻インター線の整備を推進し、札幌市や江別西インターチェンジなどへのアクセス機能の強化を図るなど、将来道路網を基本とした整備を進めます。

###### 1)-2 歩行系道路

◇地区核である大麻駅周辺や都市幹線道路などを主要歩行者通行路線として位置づけ、安全で快適な歩行・自転車空間の確保に努めます。

###### 1)-3 公共交通及び関連施設等

◇バス交通の課題に対応した効率的なバス交通体系の検討を行い、駅などの交通結節機能の強化を図り、地域の利便性を高めるとともに、公共交通の利便促進を図ります。

#### 2) 水と緑

◇沢状の地形や既存樹林などの地理的特性を活かし、自然環境と調和する成熟したまちなみをめざします。

◇大麻西公園、大麻中央公園などは、緑の拠点として適正に管理・保全し、野幌森林公園や鉄道林とともに緑豊かな都市空間の形成を図り、連続する緑のネットワークとして保全・活用します。

◇既存施設の活用と長寿命化を基本としながら、バリアフリー化を進めるなど誰もが利用しやすい公園施設の充実を市民協働で進めます。

◇地域内の公園や緑地において、アダプト・プログラム制度を活用した、地域住民などによる公園の清掃・美化活動を進めます。

### 3)上下水道

- ◇上下水道は、維持管理に重点を置きながら、必要に応じて計画的な施設の整備を進め、安全で快適な生活環境を保全します。
- ◇災害時のライフライン確保のため、施設の耐震化を進めるなど、災害に強い上下水道施設をめざします。

### 4)公共施設等

- ◇地域の公共施設等は、施設の長寿命化や有効活用、機能の充実に努め、バリアフリーなどに配慮された誰もが利用しやすい施設整備に努めます。また、適正な維持管理のもと、必要に応じて多様な住民ニーズを踏まえた利活用を検討します。
- ◇施設整備にあたっては、市民と行政の役割分担のもと、多様な利用や転用が容易な構造、既存施設の配置状況や利用状況及び地域特性などに応じた適正配置、耐震性や耐久性、景観などに配慮します。

## ③都市環境

### 1)都市防災

- ◇災害時の避難所機能を有する公共施設や小中学校施設の耐震化の促進や、一時避難所となる公園のオープンスペースの確保、避難経路・代替性を考慮に入れた道路網の形成、上下水道の耐震化の促進、緊急時における指定輸送道路の確保など、災害に応じた施設の対策に努めます。
- ◇野幌森林公園などにおける林野火災の予防や市街地への延焼防止のため、関係機関との連携強化に努め、組織的な対策を図ります。

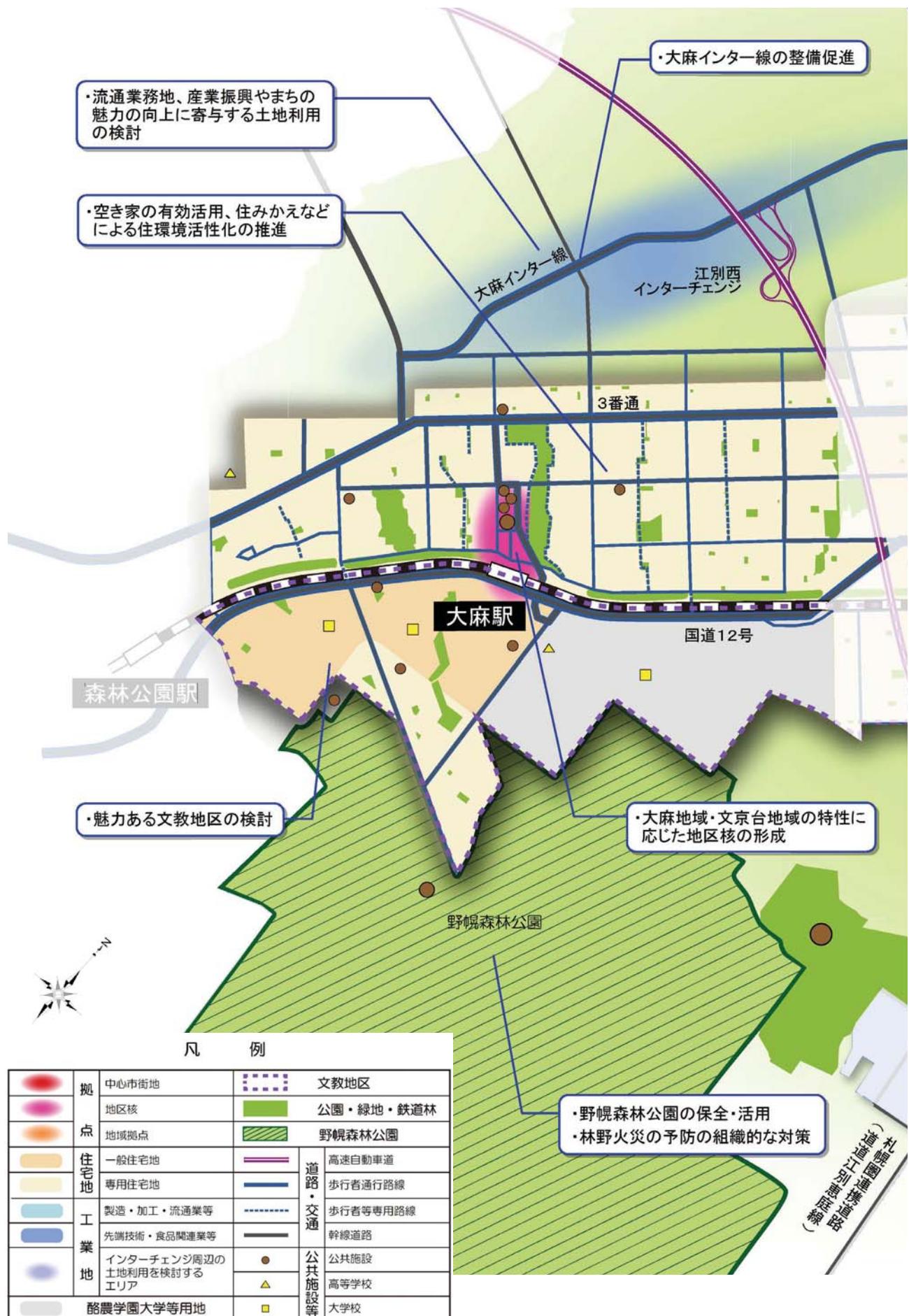
### 2)景観

- ◇大麻地域は、緑豊かで閑静な住環境を印象づけるうるおいのある景観形成を市民協働で進めます。
- ◇文京台地域は、大学、教育研究機関が集積した文教地区や良好な住宅地としての特性を活用し、野幌森林公園への入口にふさわしい景観づくりを進めます。
- ◇景観づくりにあたっては、イベントの実施や地域による事業者・市民などの景観形成活動等の情報発信に努め、景観形成への市民意識の高揚を図り、景観形成に関する計画に即して協働で進めます。
- ◇江別西インターチェンジ周辺地区の土地利用の検討においては、農村地に囲まれているなど、周辺環境に配慮した景観形成に努めます。
- ◇公共施設整備などにおいては、地場産れんがの使用を推進するなど、周辺環境と調和した江別らしい景観に配慮します。

### 3)環境

- ◇野幌森林公園の保全・管理について、市民や関係機関等と連携を図りながら進めます。

## 大麻・文京台地域方針図



### 3-4. 豊幌地域

#### 3-4-1. 地域概要

豊幌地域は、市街地から夕張川を隔て、豊幌駅周辺の国道12号南側に位置し、社会福祉施設が立地するなど良好な自然環境を有する、周辺を農地に囲まれた飛び地の市街地を形成しています。

主な土地利用については、国道12号沿道に沿道サービスを主体とした商業施設が立地する近隣商業地、豊幌駅周辺の古くからある住宅地、その両側は土地区画整理事業により造成された住宅地となっています。

#### 3-4-2. 地域の現況と求められる視点

豊幌地域は、国道12号沿道に豊幌駅と商業施設等、住宅地内に福祉施設や豊幌小学校などの公共施設が立地しています。計画的に整備された住宅地では、未利用宅地もみられるものの住宅建設が進んでいます。また、周辺の鉄道林や河川などの自然環境、農村環境という豊かな景観資源を有し、住宅地内にも豊幌公園などを有する良好な住環境を形成しています。一方で、他地域と比べて近年は少子高齢化が最も進んでいることから、既存施設や未利用宅地を有効に活用し、良好な住環境や豊かな自然・農村環境などの地域資源を活かして地域の魅力を高めるなど、今後も安心して暮らせる地域づくりを行うことが必要です。

石狩川と夕張川が合流する低地帯に位置しており、幌向川が地域内を横断している地形的条件から、過去の豪雨により甚大な被害を受けてきた地域です。そのため、今後も継続して治水対策を行い、地域の安全性向上に努めることが重要です。

#### 3-4-3. 地域づくりの目標

豊幌地域は、周囲が農地に囲まれており、豊かな自然環境や農村景観などに恵まれた特性を活かして地域の魅力を高めるとともに、継続的な治水対策による安全・安心な地域づくりを進めることから、次の2つの目標を定めます。

##### ①豊かな自然や農村環境を活かし、コミュニティを重視したコンパクトな市街地を形成します

豊幌駅を中心としたコンパクトな市街地、市街地周辺の豊かな自然環境、農村景観などの特性や、都市と農村の良好なコミュニティを活かした住環境を形成していきます。また、地域コミュニティ形成を図るための公共施設等の活用、転用などについて検討を進めます。

##### ②継続的な治水対策と田園景観の保全・活用を推進します

これまで各種の治水事業が行われてきましたが、今後も継続的な治水対策を行うとともに、河川や河畔林、耕地防風林といった豊かな緑が調和した良好な田園景観を保全し、住環境の形成に活かしていきます。

### 3-4-4. 地域づくりの基本方針

#### ①土地利用

##### 1) 拠点：地域拠点（豊幌駅周辺）

◇豊幌駅周辺は、地域の日常活動の拠点として、地域の実情に応じた生活関連機能などの充実を図り、周辺住環境と調和した地域拠点を形成します。

##### 2) 幹線道路沿道地

◇国道12号沿道という良好な交通環境を活かし、既存施設の有効活用や生活利便施設等の誘導に努めます。

##### 3) 住宅地

◇豊幌駅周辺の住宅地は、戸建住宅中心の専用住宅地とし、未利用宅地の住宅建築を促進するとともに、良好な住環境や、都市と農村の交流、農村地区との隣接などの農のある暮らしが活かされる住環境の形成をめざします。

◇農とのふれあいのある住環境形成のため、引き続き地区計画制度によるゆとりある良好な住環境を維持するとともに、グリーン・ツーリズムの推進による土地利用について検討し、周辺農地と調和した自然豊かな住環境の形成を推進します。

#### ②都市施設

##### 1) 道路・交通

###### 1)-1 道路網

◇地域内の都市幹線道路は、国道12号への自動車交通の円滑化と歩行者の安全性、快適性を確保する路線として、地域の実情に応じて、将来道路網を基本とした整備推進に努めます。

◇豊幌4号通は、都市計画道路見直し検討路線として、人口減少や土地利用などを考慮し、必要な見直しの検討を行います。

###### 1)-2 歩行系道路

◇拠点地区である、豊幌駅周辺や都市幹線道路などを主要歩行者通行路線として位置付け、安全で快適な歩行・自転車空間の確保に努めます。

###### 1)-3 公共交通及び関連施設等

◇豊幌駅周辺は、駅利用者の利便性や安全性を踏まえた協働による駅舎管理を行うとともに、状況に応じて、駐車場や駐輪場などの適正な維持・管理を行うなど、駅周辺の環境整備を図ります。

### 2) 水と緑

- ◇石狩川、夕張川、幌向川などの河川、鉄道林、豊幌公園など、適正に管理・保全し、緑豊かな都市空間の形成を図り、都市の緑のネットワークとして保全・活用します。
- ◇既存施設の活用と長寿命化を基本としながら、バリアフリー化を進めるなど誰もが利用しやすい公園施設の充実を市民協働で進めます。
- ◇地域内の公園や緑地において、アダプト・プログラム制度を活用した、地域住民などによる公園の清掃・美化活動を進めます。

### 3) 上下水道

- ◇上下水道は、維持管理に重点を置きながら、必要に応じて計画的な施設の整備を進め、安全で快適な生活環境を保全します。
- ◇災害時のライフライン確保のため、施設の耐震化を進めるなど、災害に強い上下水道施設をめざします。

### 4) 公共施設等

- ◇地域の公共施設等は、施設の長寿命化や機能の充実に努め、バリアフリーなどに配慮された誰もが利用しやすい施設整備に努めるとともに、農とのふれあいや地域コミュニティの形成を図るため、有効活用について検討していきます。

## ③都市環境

### 1) 都市防災

- ◇災害時の一時避難所として公園のオープンスペースの確保、避難経路・代替性を考慮に入れた道路網の形成、上下水道の耐震化の促進、緊急時における指定輸送道路の確保など、災害に応じた施設の対策に努めます。
- ◇石狩川、夕張川、幌向川などの各種河川や集水路などの継続的・効果的な治水対策を行います。

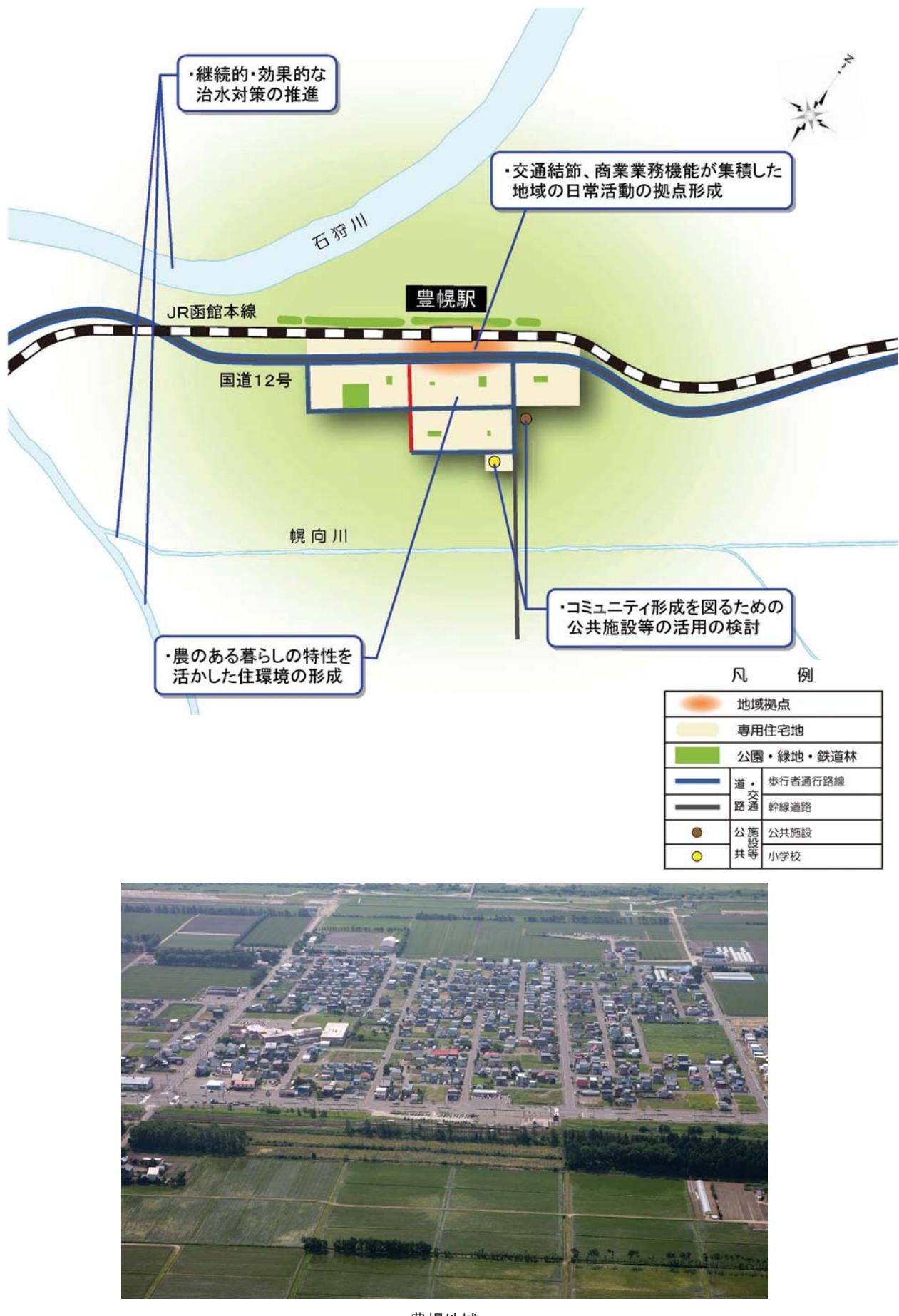
### 2) 景観

- ◇市街地周辺の農地や石狩川、鉄道林、耕地防風林などの豊かな緑が調和した良好な田園景観を保全・活用します。
- ◇豊幌駅やその周辺の景観づくりを景観形成への市民意識の高揚を図りながら、景観形成に関する計画に即して、協働で行います。

### 3) 環境

- ◇石狩川や夕張川などの河川について、河川環境及び治水機能を適正に維持・管理し、自然環境の保全・活用に努めます。

## 豊幌地域方針図



豊幌地域

### 3-5. 農村地域

#### 3-5-1. 地域概要

市街化調整区域にある農村地域は、食料生産基地としての農地、良好な自然環境を維持する森林や河川敷地のほか、農業集落地や幹線道路沿道などで構成されています。市街地を取り囲むように位置しており、都市部近郊でありながら豊かな自然環境を有する、江別市の農畜産業を支える地域です。

#### 3-5-2. 地域の現況と求められる視点

市街化調整区域にある農村地域は、都市部に近接しながら豊かな農地や自然環境などを有しており、農畜産業の生産活動は、農家人口や農家数が減少するなか、経営耕地面積は一定程度の規模を維持し、札幌近郊の都市と比べて経営規模が大きくなっています。近年は直売所や貸し農園などのグリーン・ツーリズムの取組や、江別産農畜産物のブランド化、地産地消、食育活動などが進められており、これらの取組や都市と農村の近接などの農業生産における優位性を活かした農村地域の振興が必要となります。

農村地域には、農地のほか、江別東インターチェンジ、江別西インターチェンジ、野幌森林公園、周辺環境を活かした施設など、産業振興に資する重要な地域資源が複数存在しています。また、工業地に隣接しており、これらの優位性を活かし、産業振興を進めることが重要です。

野幌森林公園をはじめ、幹線道路沿道の森林や農地など、良好な自然景観を有しているなか、一部には景観阻害要因となっている資材置き場などの利用も散見されます。そのため、農畜産物などの地域資源とともに、良好な景観資源を維持し、活用していくことにより、美しい都市景観の形成を図ることが重要です。

### 3-5-3. 地域づくりの目標

農村地域は、江別市の食料生産基地として、農地の保全を基本としながら、良好な自然環境、農村景観や都市との近接、交通利便性などの優位性を活かした地域づくりを進めることから、次の3つの目標を定めます。

#### ①地域の特性を活かした農業展開と都市部との交流を促進する土地利用を推進します

都市との近接、農畜産物や経営の多様性、他産業や大学・研究機関との連携などを活かした都市型農業の推進により、生産性が高く多彩な農業を展開します。

また、フード特区の指定により、食の機能性・安全性に向けた研究支援など、食の付加価値向上に向けた関連産業を強化するための施策を進めることから、農業と他産業との連携を視野に入れた地域経済の振興に寄与する土地利用を検討します。

#### ②産業振興に寄与する地域資源・既存施設の活用を推進します

農地のほか、2箇所のインターチェンジ、野幌森林公園などの重要な地域資源や、江別市の産業を支える工業地と隣接する特性を活かし、産業振興、自然豊かな都市環境の形成などを推進します。

#### ③豊かな自然環境の保全と都市と農村が調和した都市景観を形成します

農村地域が有する豊かな自然景観を守りながら、産業や農業振興に寄与する土地利用の検討を行うとともに、江別らしい美しい都市景観を維持・形成する取組や具体的な方策の検討を進めます。



農村風景

### 3-5-4. 地域づくりの基本方針

#### ①土地利用

##### 1) 農業地

###### 1)-1 農地

◇優良農地の保全や農業基盤整備を図り、食料生産基地にふさわしい土地利用を図ります。

◇農業者の良好な生活環境の維持・向上に努めるとともに、農畜産物の高付加価値化や地産地消など江別市の特徴を活かした都市型農業を推進します。

###### 1)-2 農業関連産業地

◇都市と農村の交流・活性化を図るため、農業者自らが計画・経営する市民農園や直売所、農産物加工施設、集会・交流施設等の施設活用や土地利用について、農業者及び関係機関と検討します。

◇検討においては、農場・農園などの立地環境や道路拡幅整備等の交通環境の優位性などを踏まえて行います。

◇フード特区の指定などに伴い、農業と第2次産業・第3次産業、大学・研究機関等が連携した食関連産業に関連する土地利用を、関係機関との連携を図りながら検討します。

##### 2) 河川敷地

◇生態系の維持に重要な役割を担う石狩川や千歳川、夕張川などの市内を流れる様々な河川は、治水機能を確保するとともに、緑豊かな江別らしい景観の提供や親水空間として、関係機関などとの連携を図りながら適正に保全・活用します。

◇湖沼などの水辺地においても、農村地域の魅力を高める重要な資源として、保全・活用します。

◇千歳川の総合的治水事業における江別太遊水地の平常時の利活用について、国や関係自治体等と連携し、周辺の自然環境や景観などに配慮した計画の具体化に向けて検討を進めます。

##### 3) 幹線道路沿道

◇沿道の自然環境と調和した土地利用を図り、地域との協働により良好な沿道景観の形成に努めます。

◇インターチェンジ周辺や幹線道路沿道における交通利便性を活かした施設など、地域振興に寄与する土地利用を、周辺環境との調和を考慮しながら検討します。

◇特に市内に2箇所あるインターチェンジは、農村地域に位置し、都市と近接する特性をもった江別市の地域資源であることから、農村地域の良好な環境や交通利便性を活かした産業振興やまちの魅力の向上につながる戦略的な土地利用の検討を行います。

#### 4) 野幌森林公園

- ◇道立自然公園に指定されている野幌森林公園は、1,841ha の広大な江別市の緑の要であり、良好な自然環境や多様な生態系だけではなく、水源かん養※1、防風効果、温室効果ガスの抑制効果などもあり、市民の憩いの場として保全・活用します。
- ◇樹林の育成や更新などの適切な維持管理、公園利用者や公園内道路による環境への負荷軽減、不法投棄による環境悪化の防止など自然環境の維持のため、国や北海道、関係自治体、関係団体などと連携しながら、市民協働により保全していきます。
- ◇自然とのふれあいや自然環境教育の場などとして、自然の大切さや生態系などに配慮した活用に努めます。
- ◇隣接する文京台地域などの住宅地やR T Nパークは、希少な自然環境である野幌森林公園と調和した市街地形成を図ります。

#### 5) 新しいニーズへの対応

- ◇市街化調整区域において未使用の公共・公益施設等がある場合、または、周囲が市街地に囲まれているなど、市街化調整区域としての機能保持が行いにくい地区については、必要に応じて、住民ニーズや周辺環境などを踏まえ、地区計画制度の活用などを含めた土地利用及び施設の有効活用について検討します。

### ②都市施設

#### 1) 公共施設等

- ◇農村地域における、教育施設等の公共施設などにおいては、利用状況に応じて、野幌森林公園や農業地、良好な自然環境などを活かした食と農にふれあえる場として、周辺環境を含めた利活用を図ります。

#### 2) 水と緑

- ◇地域内の公園や緑地において、アダプト・プログラム制度を活用した、地域住民などによる公園の清掃・美化活動を進めます。

### ③都市環境

#### 1) 都市防災

- ◇石狩川、千歳川をはじめとした河川の内水対策や堤防強化、河道の掘削、江別太の遊水地の整備・活用など、国、北海道、関係自治体等と連携した計画的、総合的な治水事業を推進します。
- ◇野幌森林公園などの林野火災の予防や市街地への延焼防止のため、関係機関との連携強化に努め、組織的な対策を図ります。

#### 用語解説

**※1 水源かん養：**雨水を吸収し浄化するとともに地下に蓄えることで洪水を調整し、土砂の流出や渇水を防ぐ、山林や森林が持つ機能。

### 2) 景観

- ◇ 良好的な田園風景や野幌森林公園、防風保安林、河川環境など、江別市固有の自然豊かな景観の保全・活用を進めます。
- ◇ 景観の保全・活用にあたっては、関係機関等との連携や所有者の理解と協力を得ながら保全活用に努め、保存樹木の指定やイベントの実施、地域による環境美化活動など、景観形成に関する計画に即して協働で進めます。
- ◇ 市街化区域の縁辺部においては、市街地の公園や緑地、農村地域の田園風景などとの連続性に配慮した、景観形成・自然環境の保全について検討を行います。
- ◇ 公共施設等の整備においては、周辺の環境と調和を図り、地場産れんがを使用するなど、江別らしい景観に配慮します。
- ◇ 農村地域内の土地利用を行う場合は、都市計画制度の活用などを検討し、農業地域である周辺環境に配慮した土地利用方策の検討を行います。

### 3) 環境

- ◇ 石狩川、千歳川などの河川や野幌森林公園といった緑と潤いのある自然環境及び農村環境の保全・活用に努めます。

## 農村地域方針図

### 農村地域の特性を活かした農業展開と都市部との交流促進

- ・優良農地の保全と都市型農業の推進
- ・都市と農村の交流を促進する土地利用の検討

### 豊かな自然環境の保全と調和した都市景観の形成

- ・田園風景、野幌森林公園、河川環境など、自然環境、農村環境の保全
- ・都市部と農村部の連続性に配慮した景観形成
- ・土地利用を行う場合の周辺環境への配慮



凡 例

	インターチェンジ周辺の土地利用を検討するエリア
	公園・緑地・鉄道林 ・耕地防風林
	歩行者通行路線
	幹線道路
	ルート未定
	公共・公益施設
	小学校
	中学校

### 産業振興に寄与する地域資源の活用

- ・フード特区の指定による農業と食関連産業・大学・研究機関などの連携を視野に入れた土地利用の検討
- ・インターチェンジ周辺・近傍地の戦略的な土地利用の検討
- ・野幌森林公園に隣接する周辺市街地や自然環境教育などの活用

